

広島市立安佐市民病院広報紙

- 第6号 -

〒731-0293 広島市安佐北区可部南二丁目1-1

TEL : 082-815-5211 (代)

http://www.asa-hosp.city.hiroshima.jp



患者様の個人情報の保護について

個人情報保護法が施行されました。当院では、患者さまに安心して医療を受けていただくために、安全な医療をご提供するとともに、患者さまの個人情報の取扱いにも、万全の体制で取り組んでおります。

【個人情報の利用目的について】

当院では患者さまの個人情報を別記の目的で利用させていただくことがございます。

これら以外の目的で利用させていただく必要が生じた場合には、改めて患者さまからの同意をいただくことしておりますのでご安心ください。

【個人情報の開示・訂正・利用停止等について】

当院では患者さまの個人情報の開示・訂正・利用停止等につきまして、「個人情報保護法」の規定にしたがって進めております。手続きの詳細のほか、ご不明な点については、窓口までお気軽にお尋ね下さい。

当院における個人情報の利用目的

医療提供

- ・当院での医療サービスの提供
- ・他の病院、診療所、助産所、薬局、訪問看護ステーション、介護サービス事業者等との連携
- ・他の医療機関等からの照会への回答
- ・患者さまの診療のため、外部の医師等の意見・助言を求める場合
- ・検体検査業務の委託その他の業務委託
- ・ご家族等への病状説明
- ・その他、患者さまへの医療提供に関する利用

診療費請求のための事務

- ・当院での医療・介護・労災保険、公費負担医療に関する事務およびその委託
- ・審査支払機関へのレセプトの提出
- ・審査支払機関又は保険者からの照会への回答
- ・公費負担医療に関する行政機関等へのレセプトの提出、照会への回答
- ・その他、医療・介護・労災保険、および公費負担医療に関する診療費請求のための利用

当院の管理運営業務

- ・会計・経理
- ・医療事故等の報告
- ・当該患者さまの医療サービスの向上
- ・入院等の病棟管理
- ・その他、当院の管理運営業務に関する利用

企業等から委託を受けて行う健康診断等における、企業等へのその結果の通知

医師賠償責任保険などに係る、医療に関する専門の団体、保険会社等への相談又は届出等

医療・介護サービスや業務の維持・改善のための基礎資料

当院内において行われる医療実習への協力

医療の質の向上を目的とした当院内での症例研究

外部監査機関への情報提供

1. 上記のうち、他の医療機関等への情報提供について同意しがたい事項がある場合には、その旨をお申し出ください。
2. お申し出がないものについては、同意していただけたものとして取り扱わせていただきます。
3. これらのお申し出は後からいつでも撤回、変更等を行うことが可能です。

安佐市民病院の

理念と基本方針

理 念

- ・ 愛と誠の精神をもって医療を提供します。
- ・ 地域の基幹病院として高度の医療・ケアを行います。

基本方針

1. 患者さまの立場を尊重し、理解と納得にもとづいた医療を行います。
2. 安全な医療と快適な療養環境の提供に努めます。
3. 地域と連携し、地域医療、救急医療、トータルケアの水準の向上に努めます。
4. 最新の医療にとりくみ、医療・医学の進歩に貢献します。
5. より良い医療サービス提供のため、健全な病院運営に努めます。

脳卒中よもやま話

～脳卒中とは～

脳神経外科 沖 修一



脳卒中とは

皆様は「脳卒中」という言葉をよくお聞きになられると思います。しかし、よく耳にする割には、その内容・意味が今ひとつ理解できないところがあるのではないのでしょうか。

「脳」は心臓や呼吸、意識といった生命そのもの、また手足の動き、言葉、痛い・暖かい・冷たいなどの運動・知覚、さらに愛情、憎しみ、好き・嫌いなどの感情など、人間が「ひと」として生きていく上で最も大切な体の一部です。

「卒」という文字には「にわか、にわか」とか「おわる、おえる」という意味があります。「中」という文字は「あたる」と読み、「からだの毒になる、そこなつ」という意味があります。つまり「脳卒中」とは「脳がにわかになつて」という意味です。「中風(ちゆうふう)」という言葉もあります。「風」には病気の名前の意味もあることから、「中風」とは「病気の風にあたる」という意味で、「中気(ちゆうき)」も同じ言葉として使われることがあります。「広辞苑第四版には「卒中」とは「卒中風(そつちゆうふう)」の略、脳溢血または脳血栓・脳塞栓発作など脳の循環障害により、突然意識を失って倒れ、深い昏睡状態に陥る症状、脳卒中」と記載されています。実際の脳卒中には、手足がしびれる、言葉がつましくしゃべれないなどの軽症から、半身不随となり動けなくなる、失語症となり全く話すことが出来なくなるなど

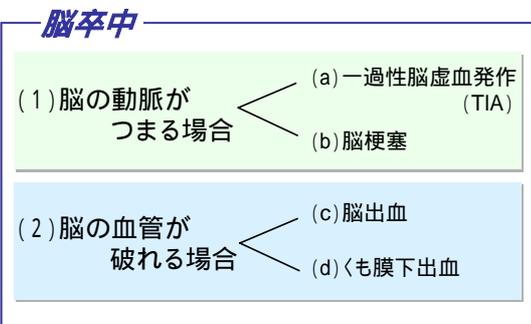
どの中等症、昏睡状態となり意識不明となつて呼吸も不規則となるような重症まで、様々な症状があります。

脳卒中にはどんな種類がある？

大きく分けると、(1)脳の動脈がつまり血液が流れなくなるか、(2)脳の動脈が破れ出血を起こすか、に分けられます。脳の動脈が詰まる場合には、詰まるのが短時間か、長時間つまったかにより症状や回復の程度が変わります。脳の動脈が一時的につまった場合は症状が短時間で回復するために「一過性脳虚血発作(TIA)」といいます(a)。一方、脳の動脈が相当長期間つまってしまい、詰まった動脈の支配領域の脳が死んでしまうことを「脳梗塞」といいます(b)。

脳の動脈が破れる場合は、脳の中に出血するか、脳の表面に出血するかに分かれます。

脳の中に出血した場合を「脳出血(脳内出血、脳内血腫)」(c)、以前脳溢血といわれていた病気にあたりまです。原因の多くは高血圧症です。



脳の表面に出血した場合は「くも膜下出血」といわれ(d)、ほとんどの場合、脳動脈瘤の破裂が原因です。

「脳梗塞」、「脳血栓症」、「脳塞栓症」はご存知ですか？

先に述べましたように、脳を栄養する動脈がつまり、その支配領域の脳が死んでしまう結果起こる病気を脳梗塞と呼んでいます。では、どのような原因で脳の動脈は詰まるのでしょうか。まず、脳を栄養する動脈の中で血液が固まり動脈をつまらせる場合を脳血栓症と呼んでいます。原因は動脈硬化症の場合が殆どです。一方、脳以外の部分から、何らかの異物が血液の流れに乗ってきて脳の動脈をつまらせる場合を脳塞栓症と呼んでいます。脳塞栓症の殆どの原因は心臓の不整脈(心房細動)です。不整脈の人は心臓の中で血液が固まり、その血液の固まりがはがれて脳の動脈をつまらせます。プロ野球の長嶋茂雄監督もこの脳塞栓症による脳梗塞です。この他に脂肪が詰まる脂肪塞栓や、潜水士が深い海から急に浮上したときに窒素ガスが脳の血管に詰まる潜水病(潜函病)などがあります。つまり、「脳血栓症」や「脳塞栓症」は結果として「脳梗塞」を起こすということです。



チーム医療紹介

院内感染と 対策チーム

「院内感染」という言葉が見つけられます。

「院内感染ってなに？」
「病院でどうして感染するの？」と思われる方もいらっしゃるでしょう。

じつは病院には色々な細菌がいつばいいいるのです。このたびは院内感染と安佐市民病院での感染対策チームの活動について紹介いたします。



病院は色々な病気の患者様が入院しておられます。この中には、膿のある方、咳の出る方、熱のある方など菌による感染症をおこして治療をしている方がたくさんいます。また、治療には抗生物質を使用しますので、これらの薬が効きにくい形に変化した菌(薬剤耐性菌)も多く存在するようになります。

病院は清潔に見えますが、実は一般家庭より多くの菌それも毒性の強い菌が存在する場所なのです。メチシリン耐性ブドウ球菌、多剤耐性緑膿菌、バンコマイシン耐性腸球菌などがあります。



病院に入院された方が、入院後に感染症にかかることをいいます。院内感染をおこす菌の多くが薬剤耐性菌ですので、これらの菌で感染症がおきると治療が非常に困難になります。したがって院内感染を防ぐことはとても大切なことで、どの病院も病気の治療だけでなく院内感染を防ぐために努力しています。



院内感染は病院の手すりやドアノブに触れ、菌が手に付くことから始まります。また咳などから菌を吸い込んでしまうこともあります。さらに患者様から他の患者様に介助者の手を介して菌が移ることも多いのです。

そこでまず院内感染を防ぐためには院内の清掃が大切です。病室、廊下、手すり、洗い場、浴室、トイレなどその場に合った用具と消毒薬を使って清掃しています。ベッドやシーツも決められた方法で消毒、洗濯をしています。

職員は処置・治療をさせていただく時に、必ず手洗いや手指の消毒とその状況に応じてマスク、ガウン、手袋、帽子の着用も行います。



安佐市民病院では医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師、その他院内の各部門からメンバーが集まって院内感染対策のためのチームを結成しています。

感染対策チームは定期的に院内をラウンドし、感染対策に問題がないか、そして特に耐性菌が蔓延しないかどうか見張っています。

もしもそのようなことがあれば直ちに対策を立て、正しい薬や消毒剤の使い方、環境の整備など職員に周知徹底をしてもらいます。その際には患者様およびご家族の方にも消毒などでご協力をいただくこともあります。

また感染対策チームは感染対策のための新しい情報にもアンテナを張り、互いに情報交換しながらよりよい感染対策を模索し続けています。



院内ラウンド風景



感染対策チームミーティング

お薦めします健康診断

人間ドックについて

私たちの体は、30歳頃から急速に老化が進みます。自分では気づかぬうちに進行する生活習慣病(がん・心臓病・脳卒中など)は、予防につとめ、早期発見、早期治療が大切です。そのためには皆様に関心を持って、定期的に健康診断を受けることが必要です。

当院では多忙な方々のために、日帰りのできる健康診断「1日人間ドック」を予約制により実施しています。健康で生きがいのある人生を送るため、どうぞご利用ください。

実施日 月曜日～金曜日
(ただし、休日、12/29～1/3及び8/6を除く)
料 金 37,800円
(子宮がん検診併施 41,700円)

脳ドックについて

脳の病気(脳出血・脳梗塞・脳萎縮)は、死亡率も高く、言語障害や四肢麻痺などの重い後遺症を残すことが多い恐ろしい病気です。脳の病気は突然発病するのではなく、自分で気づかぬうちに徐々に進行してゆく病気なので、予防につとめ、早期発見、早期治療が大切です。

当院では、最新のコンピューターシステムMRIにより、専門の脳神経外科医が診断、指導を行う「1日脳ドック」を予約制により実施しております。

特に中高年層の方におすすしめします。

実施日 月・水・金曜日
(ただし、休日、12/29～1/3及び8/6を除く)
料 金 37,930円

注:ペースメーカー埋め込み、又は手術で金属を体内に入れている方は、MRI(磁気共鳴装置)による画像診断ができませんので、予約の際に必ずお申し出ください。かわりにCT検査(コンピューター断層診断)を行います。

CTによる肺がん検診のご案内

日本人の死亡原因の第一位となっている「がん」のうちで「肺がん」は、増加傾向にあり、男性のがん死亡率の第一位、女性でも「胃がん」について第二位となっています。当院では、マルチスライスCTにより、呼吸器の専門医が診断・指導を行う「肺がん検診」を予約制により実施しております。マルチスライスCT検査は、撮影時間が短縮され、薄いスライス厚での撮影により、これまでのX線撮影では難しかったごく小さな病変までとらえることができます。健康に不安のない人生を送るには、禁煙等の生活習慣の改善と早期発見、早期治療のための定期的な検診が大切です。検診は、下記のとおり行っております。くわしくは1番窓口でお問合せください。

実施日 毎週金曜日 午後1時～
(ただし、休日、12/29～1/3及び8/6を除く)
料 金 20,050円

院内ボランティア紹介コーナー

その2

ボランティア図書

わずか1台の本棚と数十冊の絵本とでスタートした『ボランティア図書』は今年の7月で満2才になりました。3年目に入るとして現在の現在、スタッフの予想を越えて、嬉しい成長を続けています。小児科外来前に1台だった本棚は、一階ロビーに3台、二階の産婦人科・耳鼻咽喉科・神経科外来前にそれぞれ1台ずつと合計7台に増設され、蔵書はもつじき2000冊に及ぼうとしています。これらはすべて、スタート時に準備したのも、もちろんのこと多くの方々の『ボランティア』で安佐市民病院に寄せられたものです。

私達にとって病院に行かなければいけないほどの病や怪我は大事件です。順番だと分かっていても診察や治療、そして検査のための待ち時間はストレスとなります。それが入院となると、慣れない生活に不安も加わってなおさら大きなものになります。ご家族の気持ちも一緒でしょう。そんな患者様やご家族のストレスを、少しでも和らげるお手伝いができないだろうか。スタッフはそれだけの思いで『ボランティア図書』を企画しました。



最近の『ボランティア図書』の様子を紹介いたします。本棚に並んで患者様や付き添いご家族のご利用をお待ちしている本は絵本を含めて約1000冊。現在患者様のもとで活躍中の本が約500冊。そしてスタッフの手元で出番を待っているものが約500冊です。中には、あまりの人气で利用回数が多く、壊れたり破れたりしたものや、仕事に出かけたまま行方不明になったものもありますが、ご自分の本をそつと本棚に置いて下さる方もたくさんいらっしゃいます。ご利用の多いのは、アニメーションなどの絵本、昆虫や植物図鑑、挿し絵のきれいな絵本などで、大人用では何と言っても、文庫本の推理小説のようです。



『ボランティア図書』はご紹介したように多くの方々の『ボランティア』で成り立ってきました。最初に数人の方に協力をお願いしましたが、その後は特に募集をしたわけではありませんが、ご厚意で、患者様やご家族のためにと寄せて下さったバラエティ豊富な本達が、今日もみなさまのご利用を本棚でお待ちしています。



安佐市民病院

ボランティア委員会



第2回

健康祭り

H17年5月21日(土曜日) オープニング
午前10時~午後2時

場所：安佐市民病院東側駐車場
雨天：2階 WAP センター

和太鼓演奏

地域のみなさまと共に

- ◎よろず健康相談
- ◎健康チェック
- ☆新鮮野菜市
- ☆バザー
- ☆ゲーム
- 救急車見学
- 蘇生体験

P
お車でお越しの方は
病院の第二駐車場を
ご利用ください

今年もやります、健康祭り！！

「よろず健康相談」、「健康チェック」、
バザーもあるよ、みんな集まってね。